

諸聖人に依頼する祈祷

輔司詠

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。

アミン。

天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

誦

聖三祝文、至聖三者、主經

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

司誦

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。
蓋国と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。
アミン。

主憐めよ (三次)。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。
来たれ、我等の王神に叩拝せん。
来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。
来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第四百十二聖詠

主よ、我が祈を聆き、爾の眞実に依りて我が願に耳を傾けよ、爾の義に依りて我に聴き給え。爾の僕と訟を爲す母れ、蓋凡そ生命ある者は、一も爾の前に義とせられざらん。敵は我が霊を逐い、我が生命を地に蹂り、我を久しく死せし者の如く暗に居らしむ、我が霊は我の衷に悶え、我が心は我の衷に曠しきが如し。我古の日を想い、凡そ爾の行いしことを考え、爾が手の工作を計る。我が手を伸べて爾に向い、我が霊は渴ける地の如く爾を慕う。主よ、速に我に聴き給え、我が霊は衰えたり、爾の顔を我に隠す母れ、然らずば我は墓に入る者の如くならん。我に夙に爾の憐を聴かしめ給え、我爾を頼めばなり。主よ、我に行くべき途を示し給え、我が霊を爾に挙げればなり。主よ、我を我が敵より救い給え、我爾に趨り附く。我に爾の旨を行うを教え給え、爾は我の神なればなり。願わくは爾の善なる神は我を義の地に導かん。主よ、爾の名に依りて我を生かし給え、爾の義に依りて我が霊を苦難より引き出し給え、爾の憐を以て我が敵を滅ぼし、凡そ我が霊を攻むる者を夷げ給え、我は爾

の僕なればなり。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光荣は爾に帰す。(三次)

主は神なり

主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。

主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。(三次)

(句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐は世世にあればなり。

(句) 彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。

(句) 我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。

(句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

生神女のトロパリ (第四調)

我等罪人にして卑賤なる者、今熱心にして神の母に趨り就き、伏し拝み痛悔して心の衷より呼ぶ、女宰や、我等を憐み助けよ、我等罪惡の多きに因りて、将に亡びんとす、速やかに我等を救い、徒然に帰すなかれ、我等只爾を我が頼とすればなり。

又 は

(第四調)

神を生みし処女や、我等不当の僕婢、爾の力を称うるを止めず、蓋爾転達し祈禱せざれば、誰か我等をかかる苦難より救わんや、誰か我が自由を守りて今日に至らしむる、女宰や、我等爾に離れず、爾の僕婢を常に諸の災より救い給えばなり。

或 い は

(第四調)

神の母や、爾の僕婢を苦難より救い給え、蓋我等皆神に呼び、爾に趨り就く、爾は我が為に破れざる盾と防なればなり。

聖使徒〔聖神父〕のトロパリ (第四調)

聖使徒(聖神父)〔某〕や、仁慈の神に祈れよ、我が靈の罪の赦を賜わんことを。

を。

聖致命者のトロパリ (第四調)

主や爾の致命者は、其苦しみの中に、爾我が神より不朽の栄冠を受けたり、蓋爾の力に因りて、苦しむ者に勝ち、惡魔の空しき謀をも破り、彼等の祈禱に依りて、我等の靈を救い給え。

聖克肖者のトロパリ (第四調)

聖なる〔某〕や、爾の中に神に似たる分頭れて救いを得たり、蓋爾十字架を負うてハリストスに従い、爾の行を以て朽ち易き肉体を軽んじ、死せざる靈を重んずべきを教えたり、故に神に至って似たる〔某〕や、爾の靈は天使等と共に喜ぶ。

※ 聖人に依頼する句 (第一回)

至聖なる生神女に依頼する時

司 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。
詠 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。
司 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。
詠 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。

聖使徒〔聖神父〕に依頼する時

司 聖使徒〔聖神父〕（某）や、我等の為に神に祈り給え。
詠 聖使徒〔聖神父〕（某）や、我等の為に神に祈り給え。
司 聖使徒〔聖神父〕（某）や、我等の為に神に祈り給え。
詠 聖使徒〔聖神父〕（某）や、我等の為に神に祈り給え。

聖致命者に依頼する時

司 聖致命者（某）や、我等の為に神に祈り給え。
詠 聖致命者（某）や、我等の為に神に祈り給え。
司 聖致命者（某）や、我等の為に神に祈り給え。
詠 聖致命者（某）や、我等の為に神に祈り給え。

聖克肖者に依頼する時

司 克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。
詠 克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。
司 克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。
詠 克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。

司 光榮は父と子と聖神に歸す、
詠 今も何時も世世に、アミン。

至聖なる生神女や（聖使徒・聖神父・聖致命者・聖克肖者〔某〕や）、我等の為に神に祈り給え、我等熱切に、爾速なる扶助者、及び我等の靈の代求者に趨り就けばなり。

重 聯 禱

輔 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

詠 主憐めよ。(三次) 〔以下毎時同様〕

輔 又我が国の天皇、及び国を司る者の為に祈る。

輔 又教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。

輔 又、此處に集まりし神の諸僕(婢)に、慈憐、生命、平安、壮健、救贖、眷顧、寛宥、及び諸罪の赦を賜わんが為に祈る。

輔 又、ハリストスを愛する悉くの兄弟姉妹等の為に祈る。

司 蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光荣を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

詠 アミン。

※ 聖人に依頼する句 (第二回)

至聖なる生神女に依頼する時

司 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。

詠 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。

司 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。

詠 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。

聖使徒〔聖神父〕に依頼する時

司 聖使徒〔聖神父〕(某)や、我等の為に神に祈り給え。

詠 聖使徒〔聖神父〕(某)や、我等の為に神に祈り給え。

司 聖使徒〔聖神父〕(某)や、我等の為に神に祈り給え。

詠 聖使徒〔聖神父〕(某)や、我等の為に神に祈り給え。

聖致命者に依頼する時

司 聖致命者(某)や、我等の為に神に祈り給え。

詠 聖致命者(某)や、我等の為に神に祈り給え。

司 聖致命者(某)や、我等の為に神に祈り給え。

詠 聖致命者(某)や、我等の為に神に祈り給え。

聖克肖者に依頼する時

司 克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。
詠 克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。
司 克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。
詠 克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。

司 光栄は父と子と聖神に帰す、
詠 今も何時も世世に、アミン。

至聖なる生神女や（聖使徒・聖神父・聖致命者・聖克肖者〔某〕や）、我等の為に神に祈り給え、我等熱切に、爾速やかなる扶助者、及び我等の靈の代求者に趨り就けばなり。

小 聯 祷

輔 我等復又安和にして主に祈らん。

詠 主憐めよ。

輔 神や爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ。

詠 主憐めよ。

輔 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て、並びに悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん

詠 主爾に。

司 蓋爾は平安の王及び我が靈の救主なり、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

詠 アミン。

輔 謹みて聴くべし。

司 衆人に平安。

輔 爾の神にも。
睿智。

ポロキメン

(至聖なる生神女に)

誦 我爾の名を、萬世に誌さしめん。
詠 我爾の名を、萬世に誌さしめん。
誦 我が心善言を湧き出せり。
詠 我爾の名を、萬世に誌さしめん。
誦 我爾の名を、萬世に誌さしめん。

(聖使徒に)

誦 其聲は全地に傳わり、其言は地の極に至れり。
詠 其聲は全地に傳わり、其言は地の極に至れり。
誦 天は神の光榮を傳え、穹蒼は其手の作る所を告ぐ。
詠 其聲は全地に傳わり、其言は地の極に至れり。
誦 其聲は全地に傳わり、其言は地の極に至れり。

詠 其言は地の極に至れり。

(成聖者及び克肖者に)

誦 聖人の死は、主の目の前に貴し。
詠 聖人の死は、主の目の前に貴し。
誦 我何を以て主の我に施せし悉の恩に報いん。
詠 聖人の死は、主の目の前に貴し。
誦 聖人の死は、主の目の前に貴し。
詠 主の目の前に貴し。

輔 主に祈らん。

詠 主憐めよ。

司 蓋我が神や、爾は聖にして聖なる者の中に居る、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

詠 アミン。

輔 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ。
 詠 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ。
 輔 神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ。
 詠 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ。
 輔 凡そ呼吸ある者は、
 詠 主を讃め揚げよ。
 輔 我等に聖福音經を聴くを賜うを主・神に祈らん。
 詠 主憐めよ。(三次)
 輔 睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし。
 司 衆人に平安。
 詠 爾の神にも。
 司 「某」伝の聖福音經の読み。
 詠 主や、光榮は爾に帰し、光榮は爾に帰す。
 輔 謹みて聴くべし。

福 音

(「諸」と在る項は複数の当該聖人に依頼する祈祷に用いる。)

生神女に (ルカ伝 一・三九〇、四九、五六)
 聖神使に (ルカ伝 一〇・二六、二二)、又は(マトフェイ 一三・二四、三〇、三六、五三)
 聖預言者に (マトフェイ伝 二二・二九、三九)、又は(ルカ 一一・四七、二二・二)
 聖使徒に (マトフェイ伝 九・三六、一〇・八)
 諸聖使徒に (ルカ伝 一〇・一、二二)、又は(ルカ伝 一〇・二六、二二)
 成聖者に (イオアン伝 一〇・九、一六)
 諸成聖者に (マトフェイ伝 五・二四、一九)、又は(イオアン伝 一〇・一、九)
 聖克肖者及び佯狂者に (マトフェイ伝 二二・二七、三〇)、又は(ルカ伝 六・一七、二三)
 克肖なる母(克肖女)に (マトフェイ伝 二五・一、一三)、又は(ルカ伝 七・三六、五〇)
 聖致命者に (ルカ伝 一一・二、二二)、又は(イオアン伝 一五・一七、一六・二)
 諸聖致命者に (マトフェイ伝 一〇・一六、二二)、又は(ルカ伝 二二・二、一九)
 聖神品致命者に (ルカ伝 一一・三三、四〇)、
 諸聖神品致命者に (ルカ伝 六・一七、二三)、又は(ルカ伝 一四・二五、三五)

聖修道致命者に (マルコ伝 八・三四〜九・一)

聖諸修道致命者に (マトフエイ伝 一〇・三三〜三三、三七〜三八)、又は(マトフエイ伝

一九・二七〜三〇)、又は(ルカ伝 一八・三五〜四三)

諸聖致命女に (マトフエイ伝 一五・二二〜二八)、又は(マルコ伝 五・二五〜三四)

聖修道致命女に (マトフエイ伝 二五・一〜一三)

聖表信者に (ルカ伝 一一・八〜一二)

聖廉施者に (マトフエイ伝 一〇・一、五〜八)

詠 主や、光荣は爾に歸し、光荣は爾に歸す。

※ 聖人に依頼する句 (第三回)

至聖なる生神女に依頼する時

司 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。

詠 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。
司 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。
詠 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。

聖使徒〔聖神父〕に依頼する時

司 聖使徒〔聖神父〕(某)や、我等の為に神に祈り給え。
詠 聖使徒〔聖神父〕(某)や、我等の為に神に祈り給え。
司 聖使徒〔聖神父〕(某)や、我等の為に神に祈り給え。
詠 聖使徒〔聖神父〕(某)や、我等の為に神に祈り給え。

聖致命者に依頼する時

司 聖致命者(某)や、我等の為に神に祈り給え。
詠 聖致命者(某)や、我等の為に神に祈り給え。
司 聖致命者(某)や、我等の為に神に祈り給え。
詠 聖致命者(某)や、我等の為に神に祈り給え。

聖克肖者に依頼する時

司 克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。
詠 克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。
司 克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。
詠 克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。

司 光荣は父と子と聖神に帰す、
詠 今も何時も世世に、アミン。

至聖なる生神女や（聖使徒・聖神父・聖致命者・聖克肖者〔某〕や）、我等の為に神に祈り給え、我等熱切に、爾速やかなる扶助者、及び我等の霊の代求者に趨り就けばなり。

重 聯 禱

輔 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

詠 主憐めよ。（三次）〔以下毎時同様〕

輔 又我が国の天皇、及び国を司る者の為に祈る。

輔 又教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。

輔 又、我等の主神が我等罪人の祈りの聲を聴き容れ、其諸僕（婢）を憐み、彼等を凡の憂愁、艱難、窮乏、忿怒より癒い、又彼等を霊体の病より守り、彼等に壮健と長寿とを賜るが為に祈る。

輔 又、此の都邑と凡の都邑と地方が、飢饉、疫病、地震、水難、火難、剣難、外攻、内乱より護られ、我が善にして人を愛する神が仁慈と哀憐とを垂れて、凡そ我等に臨む怒を遏め、其我等に迫る義なる罰より我等を救い、及び我等を憐むが為に祈る。

輔 又、主神が我等罪なる者の祈の聲を聆き納れて、我等を憐むが為に祈る。

司 神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との侍や、我等に聞き給え、主宰や、我等の罪に慈憐を垂れ、慈憐を垂れて我等を憐み給え、蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光荣を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

詠 アミン。

輔 睿智。

司 至聖なる生神女や、我等を救い給え。

詠 ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく栄え、貞操みさおを破らずして神言ことばを生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

司 ハリストス神我等の恃たのみや、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。

詠 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。福を降せ。

司 ハリストス我等の真の神は、其至浄そのなる母、聖使徒（或いは聖神父・聖致命者）

〔某〕、亜使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

詠 アミン。

幾 歳 も

輔 主よ、今此處ここに立ちて祈る爾の諸僕（婢）〔某〕に、萬福ばんぷくにして平安なる度生どせい、

詠 壮健と救贖、及び萬事ばんじに於ける善き進歩よを與あたえて、彼（等）を幾歳いくとせにも護り給え。幾歳も。（三次）